

誌上舞台

狂言

室町時代に成立した日本初の喜劇で、会話中心に展開する。起源は、能と同じ猿楽。能舞台で能と交互に上演することが多い。大蔵流・和泉流がある。

罪人と閻魔王の立場が大逆転

案内人 善竹隆司

大蔵流の現行曲は約180曲ありますが、大阪ゆかりの演目は意外に少なく『八尾』と『しびり』くらいしかないんです。『しびり』は太郎冠者が主人に肴物を買に行けと命じられる先が堺なのですが、具体的には語られていません。

『八尾』は、八尾地藏にまつわる話という意味でこの名がついています。舞台となっているのはあの世の入り口である六道の辻。登場人物は閻魔王と罪人の二人です。



閻魔王は「武悪」という醜悪な面をつけ、異界の者を象徴する赤い鬼頭巾をかぶり、法被・半切出立ちという豪華な装束を着て堂々と登場します。一方、罪人(亡者)はひよこのように口をすぼめた「うそぶき」の面をつけ、頼りなげな様子。狂言で面をつけるのは、役者の素顔で表現できない、神仏や数百歳の老人、動物や昆虫など特殊な存在の時です。

罪人を見つけた閻魔王は竹杖を振りかざし、罪人を打撃します。地謡とお囃子に合わせて閻魔王が舞うように罪人を責め立てるこの場面は、『八尾』最大の見所です。罪人を地獄へ堕とすべく閻魔王は責めますが、罪人は竹杖の先に手紙をはさんで、「によりにより」と差し出します。

「やいやい、それがしの鼻先に差し出すのは何じゃ?」

「これは八尾の地藏より閻魔王へのお文でござる」

そこで開けてみると、この男を極楽へ送り届けてほしい、さもなくば地獄の釜を蹴破ると書かれたお地藏様からの脅しの手紙。



八尾地藏尊 常光寺
近鉄大阪線「近鉄八尾」下車
(大阪府八尾市本町 5-8-10)

先ほどまでの威勢はどこへやら、がつくり肩を落とす閻魔王。フンとばかりに得意げな罪人。最後は、「あら名残惜しの罪人やとて、鬼は地獄へ帰りけり」

狂言の登場人物は閻魔王であろうと人間味があつて滑稽です。でもその可笑しさは相手を否定する笑いではなく、温かな共感の笑い。結末も誰も傷つけません。狂言は今にも通じる、感情描写が豊かな人間賛歌だと思つて演じています。

物語のあらすじ

狂言「八尾」

八尾の里人が亡者となり、六道の辻へやって来ます。そこへ閻魔王が現れ「極楽へ行く者が増えて地獄の罪人が不足している」と亡者を責め立てます。しかし亡者は閻魔王と懇意の八尾地藏からの手紙を携えており、中には「この男は信者の又五郎の小舅だから極楽へ案内するように」と書かれています。閻魔王は渋々承知し、亡者は極楽へ旅立ちます。

八尾地藏は常光寺とされており、又五郎は焼失した同寺を再建した実在の檀家。物語の背景には、地獄へも救済に赴く地藏尊への信仰や寺院建立の功德があると考えられます。

狂言師

善竹隆司



大蔵流狂言方。能楽協会大阪支部教育特別委員。善竹忠一郎の長男で父に師事。故人間国宝・善竹彌五郎の曾孫。5歳の時「鞍猿」で初舞台。「三番三」「那須語」「釣狐」を披演する。「善竹兄弟狂言会」を弟・隆平とともに主催。宝塚北高校演劇科講師。放送芸術学院・大阪ア・ニューシヨンスクール講師。兵庫県芸術奨励賞、大阪文化祭奨励賞、神戸キワニス文化賞受賞。

ブログは <http://goodbamboo.blog.fc2.com>

狂言を観に行きませんか

●亮之会

9月21日(日)14時〜1般6000円/学生3000円、
番組「能」小督「木賊」、狂言「狐塚」他
出演／大槻文蔵、梅若猶義、善竹隆司他
会場／大槻能楽堂
交通／地下鉄「谷町四丁目」「谷町六丁目」下車
☎078127211261(野口亮)

●善竹狂言会

10月19日(日)14時〜1般5000円/学生2500円
番組「狂言」素袍落「花子」連歌盗人
出演／善竹忠一郎、善竹忠重、善竹隆司他
会場／大阪能楽会館
交通／地下鉄「中崎町」下車
☎078182213948(善竹会事務所)
<http://kyogen.jp>